

## ◆ 平成26年度活動報告シート ◆

団体名：特定非営利活動法人 埼玉環境カウンセラー協会

代表者：会長 中村 章

URL : <http://www.saieca.com>

### 1. 活動が必要とされた状況

絶滅が危惧される動植物の増大や外来生物による被害の拡大など生物多様性を脅かす事態が県内でも発生している。本年の講習会では、専門家の皆さんから埼玉の生物多様性の現状を伺いながら、一緒にこの問題を考えてみるものである。

### 2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

#### ① 第31回環境保全講習会



市民会館うらわにおいて「埼玉の生物多様性の今を考える」と題して開催し、39名が参加した。（平成26年11月1日）

セッション1 基調レクチャー「生物多様性問題の基礎知識」

三輪 誠 埼玉県環境科学国際センター主任研究員（埼玉大学連携大学院准教授）

セッション2 現状報告

1)「埼玉の植物は今」牧野 彰吾 絶滅危惧植物種調査団代表理事

2)「埼玉の動物は今」嶋田 知英 埼玉県環境科学国際センター担当部長

3)「荒川流域の保全現場から」川島 秀男 埼玉環境カウンセラー協会会員

セッション3 ディスカッション「埼玉の生物多様性を守るために展望と課題」

#### ② 家にある化学物質の使い方シリーズ5

平成26年5月から27年3月まで、化学物質検討委員会を開催し、企画、構成、内容等を検討し、冊子「浴室で使う化学製品」を完成した。

構成員 中村 章（委員長）、大熊幸雄、片倉 寛、小坂久仁子、星野弘志、堀中新一

### 3. 活動の成果

生物多様性に関する条約締約国会議が名古屋で開催されて以来、関心が高まっているが、外来種の影響などについて活発な議論が交わされた。

冊子「浴室で使う化学製品」の発行により、正しい使用方法が普及されて事故件数の減少が期待される。

### 4. 今後に残された課題

時宜に応じた先進的なテーマで、環境保全講習会を開催する。

漂白剤、衣類の防虫剤、スプレー缶、芳香剤などに続く「家にある化学物質の使い方」シリーズ6について、企画、作成する。